

木の精霊たち

ジム・ブリンクレイ

フナは全てが生きていて、意識があり、反応すると教えます。ですから全てに霊があります。多くの人々はこの考えをきっぱり拒絶します。幼い頃から教えられてきた事とは全く違うからです。この考え方に少しでもあなたをひきつける何かがあるなら、全部はまだ信じられなくても、本当だという振りをちょっとしてみてください。全てが生きていて、意識があり、反応するのだという振りをちょっとしてみると、何が起こり得るか考えてみてください。全てに対して大きな思いやりと尊敬を持ってどの様に接することが出来るのを考えてください。「決して物を愛して人を利用しないこと。代わりに、人を愛して物を利用なさい。」という有名な教えがあります。しかし、人も物も愛するのはいかがでしょうか？物も利用せず、調和の精神で協力するのはいかがでしょうか？

フナは全てが繋がっている、とも教えます。私たちの霊は互いに他の全ての霊と繋がっています。私たち人間はたいがい、自分たちと似た形態の生命体とは親密な霊的繋がりを持てます。稀に私たちとは全く違う形態の生命とも関係を持ちます。例えば、多くの人々が犬や馬とはとても親密な関係を持ちますが、蛇と親密な関係を持つ人は少ないですし、ゴキブリとはさらに少なくなります。私たちと全く違った形態なのに多くの人が緊密な霊的関係を経験するのは木です。

毎週数回、私はハイデルベルグ・カフェで一日を始めます。海を見下ろす断崖にそって五マイル歩き始める前にそこでコーヒーを飲み、マフィンを食べ、しばらく読書します。土曜の朝には美しく若いウエイトレスがハイデルベルグで働いています。彼女の名前はヘザーで、背が高くてほっそりしていて、綺麗な長いライトブラウンの髪で、皆の一日を明るくする笑みをたたえています。園芸家になるための勉強をしています。何ヶ月か前に彼女は、彼女の木の話をしました。それが私自身の木の物語を思い出させました。皆さんにこれら二つの物語をお話ししましょう。この話しで最初の二段落で私が示した考え方を皆さんがもう一度検討する気になるかもしれません。

ヘザーの話は高校を卒業したばかりのクリスマスに始まりました。彼女の母親がレッドウッドの植木をクリスマスツリーとして使うために買ってくれました。三フィート程の高さでした。クリスマスの後ヘザーは、その植木を家の外に置きました。春に地面に移植するつもりでした。嵐の時、植木は吹き飛ばされて横倒しになり、家の傍の溝に鉢ごと転がり込んでしまいました。ヘザーは溝に植木を見つけたので、溝に下りて出来るだけ早く引き上げようと思っていました。しかし、フルタイムの仕事と定時制の大学の授業で、数週間その事をすっかり忘れていました。ヘザーが次に溝を覗き込んで見ると、植木は全体的に茶色になっていました。レッドウッドの木は常緑樹なので、枯れてしまったのだと思ってがっかりしたのですが、彼女は再びその木について忘れませんでした。春になって、溝に木の葉や他のガラクタが溜まっているのに気がついたヘザーは、掃除をすることに決め、レッドウッドの植木が鉢ごと横倒しになったまま全体が緑色で、とても元気なのに気づきました。溝から木を引っ張り出し、鉢から出して地面に植えました。そして間もなく引っ越してしまいました。

数年後ヘザーが昔の友人から電話を受け取り、家に遊びに来るよう招かれました。彼女たちが話しをしていた時、彼女の友人がヘザーの木が花を咲かせていると言いました。今年の始め彼女がその友人を訪ね、その木が今や四十フィートなのを知り驚きました。それを眺めていると、彼女は彼女の木にとっても深い霊的繋がり、偽りのない愛を感じました。最近ヘザーは市がその木を切り倒す計画があるのを知りました。木の高さが制限されている地域に植えられていて、電線の妨げになっているからです。昔その木が蘇ったことや今もなおその木に深い愛着を感じるので、彼女は異議申し立てをするのを決めました。彼女の木を救うために市当局に手紙を書こうと彼女はしています。

私が幼い男の子だった時、父は家の裏庭に二本の若い楓の木を植えました。3,4年後、ハリケーンがやってきました。カリブ海で生じるハリケーンの多くはアメリカ合衆国の東部海岸を北上し、海岸線のほぼ半ばで海にそれます。ですからロングアイランドを嵐の多くは避けます。しかし、時折通常より長く海岸線に留まって右に折れ、海に向かう途中でこの島を通過する嵐もあります。非常に強い風と豪雨が特に不慣れな人には恐ろしい状況をもたらします。

ある嵐の時、あまりの強風に楓の木は（その当時七フィート程の高さだったのですが）木のとっぺんが大地に着くほどにしなりました。根から倒れるか、真二つに折れる恐れがありました。雨風に打たれ、嵐の中でまっすぐ身体を保とうとしながら地面に重い杭を打ち込み、其々の木を二本の杭で安全にしようとしている父の姿をはっきり思い出します。しかし、父が固定する前に其々の木は片側が裂けてしまいました。

嵐の後、植物と相性が良くてほとんど何でも育てることが出来た父は、杭を外しました。そして、其々の木のむき出しになった内側の表皮にタールを塗りました。タールは包帯の役目をして木が良くなるのを助けると、父は言いました。本当に木は良くなったのですが、私たちがその家に住んでいた間、木は片側が裂けて平らのままで樹皮が無く、生の木材の様な外観でした。其々の木の表皮の残りが樹皮と共に成長し続け、むき出しで平らな木材の様な部分の周りが次第に広がり丸くなって、木全体の直径に比べて小さくなっていきました。

子供時代は私にとって厳しい時代でした。しばしば一人で友達がいない、と感じていました。でも私は二本の木が大好きで、彼らも私が好きだ、と感じていました。多くの夏の時間を、互いに日陰を投げかけている下で草に座り、木の仲間である駒鳥、アオカケス、赤い羽根のムクドリモドキ、そしてそこを住まいにしていた栗鼠を見上げて過ごしました。周りに誰も居ない時には、其々の木の傍に代わる代わる立ち、長い間抱きついていました。彼らに愛されているのと、私の愛が彼らに受け入れられたのを感じました。

その後両親はその家を売りはらいました。その当時木は其々五十フィートの高さで、夏毎にとっても素晴らしい木陰を与えてくれました。しばらくの間私は、親友である楓の木を懐かしく思っていました。しばしば、彼らはどうしているだろうか、まだ生きていだろうかとさえ考えました。彼らの新しい持ち主は私がしたように彼らを愛したのだろうか、それとも邪魔だと思って枝を切りはらったり、切り倒してしまったのではないだろうか？

ヘザーが私に彼女の木について語ったほんの数週間前、子供時代の友人から突然手紙を受け取りました。彼女が五歳で私が四歳の時、二人とも一人っ子なのでお互いを養子にするのを決めました。私は彼女の弟になり、彼女は私の姉になるのです。ずっと私たちは互いをその様に感じてきました。三十年間彼女に会うことはなかったのですが、クリスマスと誕生日にはカードや手紙のやりとりをします。近年は時折Eメールの交換さえします。突然の手紙には、「私の姉さん」が結婚式で私たちが昔住んでいた地域に久しぶりに戻ったと書かれていました。写真を数枚撮り、私が欲しいだろうと思って私の昔の家の木も撮ったのです。

写真は家の正面から撮られていたのですが、後ろから聳え立つ様に私の二本の木の友達が居ます。今や其々六十フィート程です。写真を見た時に私を満たした愛と喜びの強い感情を言葉で表現するのは難しいです。私の友達は元気に茂っていて、幸せだ！

木や人間ではない存在と友達になった事が無い方には私の感情を理解するのは困難でしょう。もしそうならば、人生における素晴らしい何かを見失っているのかもしれない、と私は思います。全てが生きています。全てが繋がっています。全てが兄弟姉妹です。私たちは全て一つです。

このような霊的な繋がりについて学び、自分自身で経験するには如何したら良いのか、と
思っているなら、フナの知識をより深く学ぶのを勧めます。いくつもの本、カセットや
ビデオテープ、そしてコースがこのホームページで紹介されているので役に立つと思
います。サージ(このホームページのアロハ・インターナショナルの主宰者であり、フナ・
インターナショナルの代表者；訳者)と天国のような場所(カウアイ島のこと；訳者)で
一週間過ごすのを検討するのもよいでしょう。あちこちの自然がとても美しい場所で兄
弟姉妹と学び、成長し、出会うのです。自然という宇宙に奥深く隠された智慧の探求は、
フナクエストと呼ばれます。皆さんがその経験をする機会を得られることを望みます。

翻訳 M. Hayashi (2005)

Copyright 2002 Aloha International